

2025 年度秋季入学
学 生 募 集 要 項

日本工業大学
大学院工学研究科

博士前期課程・博士後期課程

(一般入学試験・社会人特別選抜)

大学院工学研究科

博士前期課程

学 生 募 集 要 項

大学院工学研究科 博士前期課程の目的・ポリシー……………	P2
1. 日程……………	P3
2. 募集定員……………	P3
3. 出願資格……………	P3
4. 志望する研究指導教授との事前面談……………	P4
5. 選考方法・選考基準・試験内容等……………	P4,5
6. 出願方法……………	P6
7. 受験上の注意 ……………	P7
8. 振替受験措置について……………	P7
9. 身体に障がいのある方の出願について……………	P7
10. 個人情報の取扱いについて……………	P7
11. 合格発表 ……………	P8
12. 入学手続 ……………	P8
13. 入学金・学費・委託会費等 一 覧……………	P8,41
14. 奨学金制度 ……………	P8,42
大学院博士前期課程の概要 ……………	P9～18
環境共生システム学専攻	
機械システム工学専攻	
電子情報メディア工学専攻	
建築デザイン学専攻	

博士前期課程の出願書類（所定様式）

大学院工学研究科 博士前期課程の目的・ポリシー

【 目 的 】

工学研究科は、工学に関する精深な学識を究め、技術社会に対応し得る実工学的研究をすすめ、もって社会に寄与することを目的とする。

2. 工学研究科博士前期課程は、広い視野に立って工学における先進的かつ実践的な学識および能力を授け、高い専門性と研究能力を有する創造的職業人を養成することを目的とする。

【 アドミッションポリシー 】

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程は、「実工学」の理念のもと、主体的に研究・開発計画を立案し、推進できる能力と素養を有する人物を求めます。研究・開発を進めるために必要な工学の基礎を修得し、高い倫理観をもって目標を達成するために継続して努力できる意欲・姿勢を重視します。

【 カリキュラムポリシー 】

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程では、これから益々多様化する社会において、変化し続ける科学技術に順応できるよう、堅実な基礎の上で柔軟に思考し、新しい価値を創出できる技術者を養成するための教育課程を用意しています。

1 年次には、専門領域毎に配置された選択科目の他に、必修科目として各専攻の特性に合わせて、主体的に学修を進める「演習科目」を配置しています。演習科目では、コミュニケーション能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力などを育みます。

2 年次においては、それまでに修得した知識・技能を生かし、主体的に研究・開発を進め、設定した目標を達成し、修士論文や修士設計を完成させます。

【 ディプロマポリシー 】

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程では、所定の修了要件を満たすことで下記の能力と資質を備えたものと認め、修士（工学）を授与します。

【専門力】

- ・社会において活用できる実践的な技術力を身につけ、幅広い視野から課題発見・解決につなげることができる。
- ・特定分野の深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。

【人間力】

- ・技術者・研究者として高い倫理観を持ち、柔軟に思考し、自律的・持続的に行動することができる。
- ・自らの考えを論理的に説明し、想像力をもって他者の意見を理解し、議論を深めることができる。

1 日程

入試区分	出願期間	試験日と試験会場	合格発表日
一般入学試験・ 社会人特別選抜	2025 年 7 月 14 日（月）～ 2025 年 7 月 18 日（金）必着	2025 年 7 月 24 日（木） 埼玉キャンパス	2025 年 7 月 28 日（月）

2 募集定員

専攻名	募集人員
環境共生システム学専攻	15 名
機械システム工学専攻	35 名
電子情報メディア工学専攻	25 名
建築デザイン学専攻	25 名

3 出願資格

一般入学試験

以下のいずれかに該当する者。

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者及び卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者。
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を 2025 年 9 月までに修了した者及び修了見込みの者。
- (4) 文部科学大臣の指定した者。
- (5) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 9 月 21 日現在で 22 歳に達している者。
- (6) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。

※出願資格(5)(6)に該当する者は、出願前に入学資格審査を要します。出願開始 1 ヶ月前までに教務課までお問合せください。

社会人特別選抜

以下のいずれかに該当し、入学時に 2 年以上の社会経験を有する者。

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者。
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者。
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者。
- (4) 文部科学大臣の指定した者。
- (5) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 9 月 21 日現在で 22 歳に達している者。

※出願資格(5)に該当する者は、出願前に入学資格審査を要します。出願開始 1 ヶ月前までに教務課までお問い合わせください。

4 志望する研究指導教授との事前面談

出願を希望する方は、出願に先立ち志望する研究指導教授と入学後の研究等について事前面談を行い、研究分野及び研究内容等を確認の上、志望する研究指導教授の承諾を得る必要があります。

なお、研究の特性上、事前面談の申込みは1回限りいたします。

以下の書類を作成し、kyomu@nit.ac.jp に送信してください。

＜提出書類＞ 本学ホームページからダウンロード

①履歴書

②学習状況・研究計画の概要

＜提出方法＞

メールを送信する際は、以下の項目を必ず記載してください。

①件名

「大学院博士前期課程入試_事前面談希望（〇〇専攻）」

②記載事項

「氏名」「入試区分（一般入学試験または社会人特別選抜）」「志望専攻名」「志望する研究指導教授名（1名）」

※遅くとも「出願開始3週間前まで」にメールを送信してください。

提出書類を確認し、「出願開始2週間前まで」にご連絡します。

※提出書類の他に、面接に必要な書類等を求める場合があります。

※本学出身者は、卒業研究等指導教員の指示に従うこと。

5 選考方法・選考基準・試験内容等

一般入学試験

(1) 選考方法・選考基準：書類審査、筆記試験および面接

【書類審査】出願書類に基づき、工学等の基礎学力や工学への主体性・意欲・姿勢を評価します。

【筆記試験】数学・外国語・専門科目の筆記試験に基づき、工学等の基礎学力を評価します。

【面接】主体的に研究・開発計画を立案し推進できる能力と素養や、高い倫理観をもって目標を達成するために継続して努力できる意欲・姿勢を評価します。面接は日本語で行います。外国籍を有する方の日本語に関する学力は、面接でも評価します。

(2) 筆記試験の内容

■試験科目

専 攻	試 験 科 目		
	数 学	外 国 語	専 門 科 目
環 境 共 生 シ ス テ ム 学 専 攻	出題範囲は線形代数、 微分積分学、常微分方 程式	英語。 但し、外国人留学生は、 英語に代えて日本語と することができる。	■ 専 門 科 目 の 選 択 (p.5)を参照
機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻			
電 子 情 報 メ デ ィ ア 工 学 専 攻			
建 築 デ ザ イ ン 学 専 攻			

■ 専門科目の選択

専 攻	専 門 科 目
環 境 共 生 シ ス テ ム 学 専 攻	材料熱化学、エネルギー・環境工学、ナノ・バイオマテリアル、 生物工学、有機発光材料工学、物理化学、高分子化学、電気化学、 植物分子機能学、電子材料、分子触媒化学 上記より1科目選択してください
機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	材料力学、機械力学、熱力学、機械工作、流体力学、機械材料、 制御工学、設計工学、マイクロ・ナノ、メカトロニクス、 システム工学 上記より1科目選択してください
電子情報メディア工学専攻	エレクトロニクス、情報通信技術、マルチメディア 上記より1科目選択してください
建 築 デ ザ イ ン 学 専 攻	建築計画、建築史、建築意匠、建築構造、建築材料、建築環境工学 上記より1科目選択してください

- 電卓、関数電卓の使用は原則不可ですが、専門試験科目によっては許可する場合があります。電卓、関数電卓の使用を許可する受験生には個別に連絡します。
- 外国語の辞書の使用を許可する受験生には個別に連絡します。
- 出身学科及び成績証明書により専門試験科目の一部を免除することがあります。
- 面接時間は、受験者数により調整する場合があります。詳細は、当日ご案内します。

注 意 携帯可とされる辞書は、一般的な書籍を示します。
電子辞書、電子手帳、その他電子機能付物品の持ち込みは認めません。

(3) 筆記試験時間

	数 学	外 国 語	専 門 科 目
時 間	90分	60分	120分
時 間 割	10:00 ~ 11:30	11:45 ~ 12:45	13:40 ~ 15:40

社会人特別選抜

(1) 選考方法・選考基準：書類審査および面接

【書類審査】出願書類に基づき、工学等の基礎学力や工学への主体性・意欲・姿勢を評価します。

【面接】主体的に研究・開発計画を立案し推進できる能力と素養や、高い倫理観をもって目標を達成するために継続して努力できる意欲・姿勢を評価します。

面接は日本語で行います。外国籍を有する方の日本語に関する学力は、面接でも評価します。

【注意事項】

- 面接時間は、受験者数により調整する場合があります。詳細は、当日ご案内します。

6 出願方法

(1) 出願方法

志願者は、入学検定料を納付し、出願書類一式を、教務課へ提出してください。郵送の場合は、**出願締切日必着**とします。

出願書類確認後、受験票在中封筒にて受験票を送付します。受験票が届かない場合は教務課へお問い合わせください。

【出願書類提出先】日本工業大学 教務部教務課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4丁目1番地

☎0480 (34) 4111 (代表)

【窓口受付時間】(いずれも厳守)

月～金曜日：午前9時～11時30分 午後12時30分～17時

土 曜 日：午前9時～11時30分 午後12時30分～15時

(2) 入学検定料の納付 30,000 円

入学検定料は、手数料を添え金融機関からの振込みにより納付してください。同時に、入学願書の指定箇所(3か所)に金融機関の収納印を受けてください。

※都市銀行・地方銀行・信託銀行・信用金庫などの金融機関から振込むことができます。

※ネットバンキング等の利用により収納印を受けられない場合は、振込日と金融機関をお知らせください。

※納入した検定料は、いかなる理由があっても返還しません。

(3) 出願書類 出願書類は、志望する研究指導教授の承諾を得られた方にお渡しします。

出願書類	備考
① 入学願書・受験票 (本学所定の用紙)	必要事項を記入の上、写真(②参照)を所定欄に貼付してください。 金融機関より入学検定料の収納印を受けください。 ※ 3 出願資格 の一般入学試験(5)(6)、社会人特別選抜(5)に該当する者は入学資格審査が必要です。資格審査欄に志望する専攻の押印を受けること。
② 写真	裏面に氏名を明記し、所定欄に貼付してください。 (最近3か月以内に撮影した正面上半身・脱帽で明瞭なもの。大きさは、縦4cm×横3cm、枠なし、白黒・カラー共に可)
③ 学習状況・研究計画の概要 (本学所定の用紙)	※一般入学試験による出願の場合に提出してください(志望する研究指導教授との事前面談で提出済み)。
④ 研究計画書	※社会人特別選抜による出願の場合に提出してください。(書式任意)
⑤ 成績証明書	出身大学が作成し発行したもの。
⑥ 卒業(見込)証明書	出身大学が作成し発行したもの。
⑦ 健康診断書	最近3か月以内に医療機関で証明を受けたもの。 ※本学健康管理センター発行の健康診断書については可。
⑧ 受験票在中封筒	宛先を明記してください。
⑨ 宛名ラベル1枚 (本学所定の用紙)	宛先を明記してください。合格通知または諸事項についての連絡・通知が必要となった場合に使用します。 ※本国より直接出願する留学生は、日本国内の連絡可能な住所を記入してください。

※外国人留学生は、以下の書類も提出してください。その他、事前に【13. 入学手続】の項を確認してください。

⑩ 在留カードのコピー又は在留資格を証明する書類
⑪ 残高証明(金融機関の預金残高を証明するもの)

7 受験上の注意

一般入学試験

- (1) 受験票に同封する試験室で受験してください。
- (2) 午前 9 時 45 分までに試験室に入室してください。入室限度時刻（10 時 30 分）以降の試験会場への入室は認めません。ただし、交通機関の遅れ等、やむを得ない事情によって遅刻した場合は、教務課に申し出てください。
- (3) 受験票を紛失した場合は、教務課に申し出て、指示を受けてください。
- (4) 筆記用具を持参してください。
- (5) 多機能（計算機能、英語辞典、漢字辞典等）付きの辞書の持込みは禁止します。また、アラーム付きの時計は、機能を解除してください。
- (6) 携帯電話等の電源は OFF にしてください。
- (7) 試験時は、試験監督等の指示に従ってください。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。

社会人特別選抜

- (1) 受験票に記載された集合時間の 15 分前までに、受験票に同封する集合場所にお越しください。ただし、交通機関の遅れ等、やむを得ない事情によって遅刻した場合は、教務課に申し出てください。
- (2) 受験票を紛失した場合は、教務課に申し出て、指示を受けてください。
- (3) 筆記用具を持参してください。
- (4) 携帯電話等の電源は OFF にしてください。

8 振替受験措置について

学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、インフルエンザ等）に罹患し治癒していない場合は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、原則として受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認められた場合は、この限りではありません。

【2025 年度秋季入学（9 月入学）一般入学試験・社会人特別選抜】の志願者は、お問合せください。

なお、振替受験措置を希望しない場合でも、原則として、検定料の返還はしません。

9 身体に障がいのある方の出願について

受験に際し、疾病・負傷や身体障がい等のために、特別な措置を希望する方は、「受験相談申請書」（本学所定の書式）を取り寄せて、出願時までに申請してください。結果については、後日お知らせします。

申請の際は、医師の診断書または身体障害者手帳（コピー可）を添付してください。

【出願書類提出先】

日本工業大学 教務部教務課
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4 丁目 1 番地
☎0480（34）4111（代表）

【窓口受付時間】（いずれも厳守）

月～金曜日：午前 9 時～11 時 30 分 午後 12 時 30 分～17 時
土 曜 日：午前 9 時～11 時 30 分 午後 12 時 30 分～15 時

10 個人情報の取扱について

出願を通して収集した住所、氏名等の個人情報は、入学試験実施、合格発表、入学手続、本学（本学関係者を含む）からの入学に関する資料の発送や、統計的集計、入学後の学修指導、これらに付随する業務に関してのみ使用し、他の目的には一切使用しません。また、個人情報の漏洩・流出等がないよう厳重に管理します。

11 合格発表

合格発表は次のとおり行います。

- (1) 合格発表日に、合格者の受験番号を本学内（1号館1階教務課前掲示板）に掲示します。
- (2) 受験者には、入試結果等を各個人宛（出願時に提出した「宛名ラベル」の宛先）に、合格発表日に速達で郵送します。
- (3) 電話等での可否に関する問い合わせには、一切応じません。

入試区分	合格発表日
一般入学試験・社会人特別選抜	2025 年 7 月 28 日（月）

12 入学手続

(1) 入学手続期間（締切日必着）

入試区分	入学手続期間
一般入学試験・社会人特別選抜	合格発表日～ 2025 年 8 月 29 日（金）

(2) 入学手続方法

合格者に通知する「入学の手引き」に従い、学費等を金融機関から振り込み後、入学手続書類を上記の入学手続期間内に提出してください。

外国人留学生は下記の書類を別途提出して下さい。

* 保証人（日本在住の方）の住民票

(3) 注意事項

- 指定の期日までに入学手続きをしない場合は、入学を許可しません。
- 卒業見込み・修了見込み等で受験し、合格した者で、2025 年 9 月 21 日までに大学院入学資格を取得できなかった者は、合格取り消しとなり、入学資格を失います。
- 出願後は、書類の変更、検定料の払い戻しは行いません。
- 出願書類等に虚偽の記載があった者には、入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。

13 入学金・学費・委託会費等一覧表

p.41 を参照してください。

14 奨学金制度

p.42 を参照してください。

博士前期課程の概要

環境共生システム学専攻

目的・目標

21 世紀の産業では、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みが進み、それを担う技術は、より一層、環境や社会への責任を果たすものでなければなりません。環境共生システム学専攻では、環境と社会の高い次元での共生を目指し、応用化学とバイオテクノロジーをベースにした「物質デザイン」、「材料・環境科学」、「生物工学」の 3 つの専門領域を中心に、教育研究活動を展開し、専門知識の融合力、新規技術の創造力をもつ研究者・技術者を養成します。

アドミッションポリシー

環境共生システム学専攻は、「物質デザイン」「材料・環境科学」「生物工学」の 3 つの専門領域に高い関心と興味を持ち、既存の専門分野の枠組みを超えて、新しい技術やシステムの創出に挑戦し、技術開発の最前線で活躍できる研究者・技術者を目指す諸君を受け入れます。

カリキュラムポリシー

環境共生システム学専攻では、新たな物質をデザインし、地球環境の保全や人類の繁栄に役立つ実用的なデバイスへと応用する「物質デザイン」、環境・エネルギーという観点から材料/資源を包括的に捉え、技術革新に繋がる研究を目指す「材料・環境科学」、生き物のもつ素晴らしい能力や機能を解明し、実社会で役立つ新技術へと応用する「生物工学」の 3 つの分野を中心に、カリキュラムを整備しています。

- (1) 専門分野の基礎的素養を身につけるため、「物質デザイン系」「材料・環境科学系」「生物工学系」の 3 つの科目区分の専門講義科目を用意しています。
- (2) 関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論 1・2」を配置しています。
- (3) 「特別演習」「特別研究」において 1 年次から本格的な研究に取り組み、学位論文を執筆します。

機械システム工学専攻

目的・目標

機械システム工学専攻では、「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」など、ものづくりに必要な分野の技術を基軸として、急速に発展する科学技術に対応する力および優れた技術開発を推進できる能力を身につけます。当該専攻に関連する学術研究と専門科目の修得を通して、多様化する社会的要請に柔軟に対応できる専門知識と実践力を備えた開発技術者および研究者を養成します。

アドミッションポリシー

機械システム工学専攻では、多様化する社会の要請に柔軟に対応する、高度な専門能力と実戦力を備えた技術者・研究者を養成します。そのための基礎的学力を有し、ものづくりに対するあつい情熱と意欲にあふれた学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

機械システム工学専攻は、ものづくりに必要な各分野の技術を修得し、プロジェクトリーダーとして活躍できる技術者・研究者の養成を目標に、専門知識の獲得と実践力の養成に重点をおいたカリキュラムを編成しています。

- (1) 1 年次では、ものづくりに必要な専門分野（「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」）を、体系的に学び、多分野にまたがる高度な専門知識を修得します。
- (2) 1 年次の「機械システム工学セミナー」では、研究を遂行するための基礎的なスキルを身につけるとともに、2 年次の「特別研究」では、修士論文に取り組み、これを発表する一連の過程において、分析能力、問題解決能力および発表能力を養成します。
- (3) 最新鋭の設備を備えた機械実工学教育センターでの研究装置の製作、あるいは先端材料技術研究センターでの材料分析により、実践的研究開発能力を養成します。

電子情報メディア工学専攻

目的・目標

電子情報メディア工学専攻は、電気工学、電子工学、およびデータサイエンスを含む情報メディア工学に関連する技術が、互いに関連しながら発展してきたことを踏まえ、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識・技術をもつ、実践的開発技術者と創造的研究者を養成します。

またこれらの学問分野が、たがいに融合した新たな専門領域である「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」の3本を柱として教育・研究活動を展開します。

アドミッションポリシー

電子情報メディア工学専攻は、「エレクトロニクス」「情報通信技術」および、データサイエンスを含む「マルチメディア」の3つの専門領域に高い関心と興味をもち、その専門領域だけに留まることなく、急速な技術の進歩にも臆することなく挑戦する意欲ある学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

電子情報メディア工学専攻に関する基礎的素養を、ひとつの専門領域にとらわれることなく、関連した境界領域的な科目も学べるように配慮し、各専門領域の講義科目を「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」の3つに分類しています。さらに各専門領域に共通する基本技術、基礎技能、課題発見能力、問題解決能力を身につけ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を育むことを目的に、1年次に必修の演習科目である「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」を設けています。これら演習科目を通じて、知識の有機的な融合と、応用力を養成します。「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、各自の研究を進め、修士論文を作成します。また、関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論1・2」を1年次春学期と秋学期に配置しています。

建築デザイン学専攻

目的・目標

建築デザイン学専攻は、建築をさまざまな視点から捉え、よりよい建築空間、生活環境ならびに地域環境を、次世代に伝達することのできる建築家、建築技術者および研究者を養成します。この目的を達成するため、実践的教育プログラムを整備するとともに、各学問分野の科目を幅広く提供します。

アドミッションポリシー

建築デザイン学専攻が求める入学者は、本専攻が掲げる教育方針に共感し、幅広い建築的能力と創造性を備えようとする意欲にあふれた人です。このため、建築における実践的な学びに対する意欲や行動力を重視します。

カリキュラムポリシー

本専攻が対象とする専門領域は、以下の4領域です。

「設計・計画」：空間デザインの視点で建築からインテリア・家具までの設計とその基礎になる研究、あるいはライフスタイルや地域計画の視点でまちづくりに関する研究や実践的活動に取り組みます。

「歴史」：住宅、都市、さらに文化環境の視点から、建築史学およびそれらに基づく保存・再生や復原設計に関する研究やプロジェクトに取り組みます。

「構造・材料」：構造力学および構造デザインの視点から、建築物の構造や架構法、ディテール等の技術を研究し、また建築材料の視点から、建築部位や家具の材料性能について研究します。

「環境・設備」：環境負荷削減・快適空間創出の視点から、建築・地域および都市の光・水・空気・温熱環境や設備システムについて研究します。

- (1) 1年次に専門の講義科目を数多く設けています。
- (2) 1年次に演習科目「プロジェクト演習」を設け、建築分野における「協働」について、ワークショップ形式をとって実践的にプロジェクトを推進します。空間の提案や設計などを実現する過程で必要となる調査情報の共有や議論、合意形成、検証の技術を身に付けます。
- (3) 一級建築士の受験資格に係る大学院での実務経験のために「インターンシップ科目」を設けています。具体的な建築の設計やプロジェクト等の課題を継続的に体験し、設計および工事管理の実務的な能力を培います。
- (4) 関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論」を1年次に配置しています。
- (5) 「特別研究」「特別研究（修士設計）」において、入学時から指導教員の下で研究・設計に取り組み、修士論文あるいは修士設計を完成させ、発表します。

【環境共生システム学専攻の指導教授および研究分野】

研究指導教授	研究分野
教 授 飯塚 完司	III-V 族化合物半導体薄膜の分子線エピタキシー成長とその評価、ダイヤモンド結晶の物性評価
教 授 八木田 浩史	エネルギーシステム分析、ライフサイクルアセスメント
教 授 伴 雅人	プラズマ化学、ナノ・バイオマテリアル、メディカルエンジニアリング、マイクロ・ナノプラスチック
教 授 大澤 正久	合成化学を主体とした機能性有機材料の開発
教 授 佐野 健一	ナノバイオ工学、生物システム工学、タンパク質工学
教 授 内田 祐一	資源の合理的回収、環境調和型素材製造技術、素材複合化
教 授 白木 将	電気化学、界面科学、全固体電池、薄膜合成
教 授 新倉 謙一	超分子化学を基軸とした機能性ナノ材料の開発、ナノ材料のバイオ応用
教 授 池添 泰弘	ナノバイオテクノロジー、磁気工学、物理化学、自己組織化、表面化学
教 授 芳賀 健	植物分子遺伝学、植物分子生理学
准教授 小池 隆司	光触媒の創製及び新反応開発を基盤とした機能性有機分子の創出

【環境共生システム学専攻授業科目】（※2025 年度現在の一覧です）

学科 目 区 分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
物質デザイン	バイオマテリアル特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 伴 雅人
	メディカルエンジニアリング特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 伴 雅人
	量子化学特論	2	◎		2				教 授 博士（工学） 大澤 正久
	光化学特論	2	◎			2			教 授 博士（工学） 大澤 正久
	物理化学特論	2	◎		2				教 授 博士（工学） 池添 泰弘
	物理化学演習	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 池添 泰弘
	分子触媒化学特論Ⅰ	2	◎			2			准教授 博士（工学） 小池 隆司
	分子触媒化学特論Ⅱ	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 小池 隆司
材料・環境科学	エネルギー・環境システム特論	2	◎	○	2				教 授 工学博士 八木田浩史
	環境学特論	2	◎	○		2			教 授 工学博士 八木田浩史
	材料循環工学特論	2	◎			2			教 授 博士（工学） 内田 祐一
	材料循環工学演習	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 内田 祐一
	電子・光材料科学特論	2	◎			2			教 授 博士（工学） 飯塚 完司
	電子・光材料科学演習	2	◎			2			教 授 博士（工学） 飯塚 完司
	表面物理特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 白木 將
	表面分析特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 白木 將
生物工学	ナノ・バイオシステム特論	2	◎		2				教 授 博士（理学） 佐野 健一
	ナノ・バイオシステム演習	2	◎		2				教 授 博士（理学） 佐野 健一
	分子組織化学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 新倉 謙一
	ナノ材料機能特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 新倉 謙一
	植物分子機能学特論Ⅰ	2	◎	○	2				教 授 博士（理学） 芳賀 健
	植物分子機能学特論Ⅱ	2	◎	○		2			教 授 博士（理学） 芳賀 健
演習科目	特別演習Ⅰ	2	◎	◎	2				八木田浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司
	特別演習Ⅱ	2	◎	◎		2			
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		八木田浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎				12	
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論 1	2	○		2				教 授 博士（理学） 衛藤 和文
	応用数学特論 2	2	○			2			教 授 博士（理学） 衛藤 和文

《修了要件》

「特別演習Ⅰ・Ⅱ」（4単位）と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（8単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外に授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

【機械システム工学専攻の指導教授および研究分野】

研究指導教授	研究分野
教授 村田 泰彦	プラスチック射出成形現象のインプロセス計測、高機能金型の開発
教授 中里 裕一	ロボット工学、医療福祉工学、マイクロメカニズム
教授 神 雅彦	精密切削・研削・研磨、超音波振動応用加工
教授 中野 道王	高効率・低工ミッションエンジンシステムの研究、化学反応解析に基づく燃焼現象の解明と応用
教授 張 暁友	磁気浮上システムおよびその応用
教授 二ノ宮 進一	難加工材料の高精度高能率加工、環境調和型加工、新概念複合工作機械
教授 樋口 勝	ロボット工学、機構学、設計工学、機械要素、バイオメカニズム、福祉機械工学
教授 瀧澤 英男	弾・塑性力学、材料試験、構成式のモデル化、非線形有限要素解析
教授 加藤 史仁	微細デバイス、医用システム、微細加工学
教授 桑原 拓也	流体力学、非熱プラズマ、エネルギー変換、環境保全技術
准教授 石川 貴一郎	移動体計測、大規模 3 次元点群処理、位置推定、防災
准教授 小崎 美勇	光計測やホログラフィなどの光応用技術
准教授 大久保 友幸	知的システム、医療福祉工学、自律移動ロボット
准教授 近藤 篤史	複合材料の特性発現メカニズム、計算工学
講師 増本 憲泰	非線形力学系、振動工学、移動ロボット、エネルギーハーベスティング、生体医工学
助教 望月 典樹	人工世界実装、バーチャルリアリティ、ヒューマンインタフェース
助教 小林 和也	ソフトマター、粉体工学、流体力学、非平衡系の物理学

【機械システム工学専攻授業科目】（※2025 年度現在の一覧です）

学科 区 分	授業科目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員	
			専門力	人間力	1 年	2 年	春	秋		
					春	秋				
生産 工学	塑性加工学特論	2	◎	○	2				【休講】	
	成形加工学特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 村田 泰彦	
	生産工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 二ノ宮進一	
	機能性材料特論	2	◎	○	2				【休講】	
	機械加工学特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 神 雅彦	
	固体力学特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 瀧澤 英男	
	新素材プロセス特論	2	◎	○		2			【休講】	
	複合材料工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 近藤 篤史	
エネルギー 計測制御工学	自然エネルギー特論	2	◎	○	2				【休講】	
	燃焼工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 中野 道王	
	制御工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 張 暁友	
	微細デバイス技術特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 加藤 史仁	
	流体工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 桑原 拓也	
	計測工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 石川貴一郎	
	光テクノロジー特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 小崎 美勇	
	構造ダイナミクス特論	2	◎	○		2			講 師 博士（工学） 増本 憲泰	
メカトロニクス ロボット工学	ソフトマター工学特論	2	◎	○		2			助 教 博士（理学） 小林 和也	
	ロボット機構学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 樋口 勝	
	実用デジタル制御特論	2	◎	○	2				【休講】	
	機能ロボティクス特論	2	◎	○	2				【休講】	
	人間ロボット共生特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 中里 裕一	
	ロボットシステム特論	2	◎	○		2			【休講】	
	ロボットビジョン特論	2	◎	○		2			【休講】	
	福祉工学特論	2	◎	○		2			【休講】	
演習科目	知的システム工学特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 大久保友幸	
	バーチャルリアリティ特論	2	◎	○	2				助 教 博士（工学） 望月 典樹	
	機械システム工学セミナーⅠ	2	◎	◎	2				村田 泰彦、神 雅彦、中野 道王、張 暁友、 二ノ宮進一、瀧澤 英男、中里 裕一、樋口 勝、 加藤 史仁、桑原 拓也、石川貴一郎、小崎 美勇、 大久保友幸、望月 典樹、増本 憲泰、近藤 篤史、 小林 和也	
	機械システム工学セミナーⅡ	2	◎	◎		2				
	研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		村田 泰彦、神 雅彦、中野 道王、張 暁友、 二ノ宮進一、瀧澤 英男、中里 裕一、樋口 勝、 加藤 史仁、桑原 拓也、石川貴一郎、小崎 美勇、 大久保友幸、望月 典樹、増本 憲泰、近藤 篤史、 小林 和也
		特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		
	共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
		English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
応用数学特論Ⅰ		2	○		2				教 授 博士（理学） 衛藤 和文	
応用数学特論Ⅱ		2	○			2			教 授 博士（理学） 衛藤 和文	

《修了要件》

「機械システム工学セミナーⅠ・Ⅱ」（4単位）と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（8単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

【電子情報メディア工学専攻の指導教授および研究分野】

研究指導教授	研究分野
教授 吉野 秀明	IoT システムのトラヒック制御とシミュレーション評価、ビッグデータ分析による需要予測、実トラヒックデータの機械学習による異常検知
教授 辻村 泰寛	進化的計算、群知能、計算知能化技術、数理計画、最適化問題、オペレーションズ・リサーチ
教授 佐藤 進也	Web 情報処理、知能システム、複雑系における情報処理機構のモデル化と応用
教授 生駒 哲一	パーティクルフィルタ、統計的信号処理、知覚情報処理、計算知能システム
教授 上野 貴博	スリップリングシステムの信頼性向上、マイコンを用いたモータ制御の研究
教授 平栗 健史	無線メディア伝送、農業情報学
教授 石原 次郎	メディア・インストール制作、情報デザイン、メディア論
教授 新井 啓之	画像・映像認識技術の産業応用、およびメディアインタラクションに関する研究
教授 桑野 文洋	ソフトウェア開発・分析ツール、IoT アプリケーションの設計開発手法、ソフトウェア工学教育に関する研究
教授 勝間田 仁	次世代グループウェアと知的ユーザインタフェースの研究開発
教授 大宮 望	情報システム開発における生産性と品質向上に関する研究、テキストマイニングを用いたデータ分析手法の研究
教授 呉本 堯	ニューラルネットワークを中心とした脳型情報処理及びその工学的応用に関する研究
教授 木許 雅則	音響適応信号処理アルゴリズムとその応用システムの開発、電子透かしを利用したセキュリティシステムに関する研究
教授 船越 裕介	故障データに基づく信頼性評価と可視化、およびユーザビリティに関する研究、統計教育における学習効率の向上に関する研究
准教授 松田 洋	映像メディアシステムの開発と教育工学分野への応用に関する研究
准教授 橋浦 弘明	ソフトウェア開発、ソフトウェアモデリング、ソフトウェアセキュリティとその教育に関する研究
准教授 松浦 隆文	数理計画、組合せ最適化、オペレーションズ・リサーチ、メタヒューリスティックスを用いた最適化アルゴリズムに関する研究
准教授 伊藤 暢彦	IoT 通信制御、IoT 応用システム、機械学習、通信資源割当最適化に関する研究
准教授 高津 洋貴	様々な環境条件におけるヒトの特性（生理・心理・行動）の分析と応用
准教授 清水 博幸	絶縁材料の劣化評価、高電圧計測技術に関する研究
准教授 加藤 利康	教育工学、学習分析による授業の支援に関する研究
准教授 大田 健紘	音声・音楽・生体を対象とした信号処理技術及び応用システムに関する研究

【電子情報メディア工学専攻授業科目】（※2025 年度現在の一覧です）

学科 目 区 分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
エレクトロニクス	電子物性特論	2	◎		2				教 授 博士 (工学) 青柳 稔
	半導体物性特論	2	◎			2			教 授 博士 (工学) 青柳 稔
	アナログ集積回路特論	2	◎		2				教 授 博士 (工学) 宇賀神 守
	アナログ集積回路応用特論	2	◎			2			教 授 博士 (工学) 宇賀神 守
	電気機器制御特論	2	◎		2				教 授 博士 (工学) 上野 貴博
	電気エネルギー工学特論	2	◎			2			教 授 博士 (工学) 上野 貴博
	適応信号処理特論	2	◎			2			教 授 博士 (工学) 木許 雅則
	ビジネスプロセス特論	2	○	○	2				教 授 博士 (工学) 大宮 望
	経営情報システム特論	2	○	○	2				教 授 博士 (工学) 大宮 望
	ソフトウェア設計特論	2	◎		2				准教授 博士 (工学) 橋浦 弘明
情報通信技術	数理解最適化特論	2	◎			2			准教授 博士 (工学) 松浦 隆文
	高電圧工学特論	2	◎			2			准教授 博士 (工学) 清水 博幸
	計算知能工学特論	2	○		2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	システム信頼性解析特論	2	○	○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	情報ネットワーク工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士 (理学) 吉野 秀明
	情報システム性能評価特論	2	◎	○		2			教 授 博士 (理学) 吉野 秀明
	ソフトコンピューティング特論	2	○		2				教 授 博士 (学術) 生駒 哲一
	最適フィルタ状態推定特論	2	○			2			教 授 博士 (学術) 生駒 哲一
	クラウドコンピューティング特論	2	◎	○	2				教 授 博士 (工学) 桑野 文洋
	高信頼ソフトウェア開発特論	2	◎	○		2			教 授 博士 (工学) 桑野 文洋
	無線通信システム工学特論	2	◎		2				【休講】
	ユビキタスネットワーク特論	2	◎			2			【休講】
	グループウェア特論	2	◎		2				教 授 博士 (工学) 勝間田 仁
	通信ネットワーク信頼性工学特論	2	◎		2				教 授 博士 (工学) 船越 裕介
	論理回路特論	2	◎			2			【休講】
	移動体通信システム特論	2	◎			2			准教授 博士 (工学) 伊藤 暢彦
マルチメディア	感性情報処理特論	2	○	○	2				准教授 博士 (先端科学技術) 高津 洋貴
	マルチメディア通信特論	2	○	○	2				教 授 博士 (情報学) 平栗 健史
	アンテナ工学特論	2	○			2			教 授 博士 (情報学) 平栗 健史
	写真メディア特論	2	○		2				教 授 博士 (情報理工学) 石原 次郎
	情報検索特論	2	◎		2				教 授 博士 (情報理工学) 佐藤 進也
	Web情報処理特論	2	◎			2			【休講】
	画像認識特論	2	○	○	2				教 授 博士 (情報科学) 新井 啓之
	映像メディア解析特論	2	○	○		2			教 授 博士 (情報科学) 新井 啓之
	自律分散システム特論	2	◎	○		2			【休講】
	生体情報処理特論	2	◎	○	2				【休講】
	統計的データ解析特論	2	◎			2			【休講】
	脳型情報処理特論	2	◎	○	2				教 授 博士 (工学) 呉本 堯
	ヒューマンマシンインタラクション特論	2	◎	○		2			教 授 博士 (工学) 呉本 堯
	教育工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士 (工学) 松田 洋
	学習分析特論	2	○	○		2			准教授 博士 (工学) 加藤 利康
	音声音響信号処理特論	2	◎			2			准教授 博士 (工学) 大田 健紘
演習科目	次世代デバイス応用セミナーⅠ	2	◎	◎	2				青柳 稔、上野 貴博、新井 啓之、桑野 文洋、松浦 隆文、清水 博幸
	次世代デバイス応用セミナーⅡ	2	◎	◎		2			
	次世代情報技術セミナーⅠ	2	◎	◎	2				辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、生駒 哲一、勝間田 仁、木許 雅則、船越 裕介、橋浦 弘明、伊藤 暢彦、高津 洋貴、大田 健紘
	次世代情報技術セミナーⅡ	2	◎	◎		2			
	次世代メディア開発セミナーⅠ	2	◎	◎	2				平栗 健史、松田 洋、佐藤 進也、石原 次郎、大宮 望、呉本 堯、加藤 利康
	次世代メディア開発セミナーⅡ	2	◎	◎		2			
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、青柳 稔、佐藤 進也、生駒 哲一、上野 貴博、新井 啓之、桑野 文洋、勝間田 仁、平栗 健史、木許 雅則、裕介、船越 裕介、橋浦 弘明、伊藤 暢彦、高津 洋貴、大田 健紘
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		石原 次郎、大宮 望、呉本 堯、加藤 利康、松田 洋、大田 健紘
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論1	2	○		2				教 授 博士 (理学) 衛藤 和文
	応用数学特論2	2	○			2			教 授 博士 (理学) 衛藤 和文

《修了要件》

「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」（4単位）か「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」（4単位）若しくは、「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」（4単位）のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（8単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

【建築デザイン学専攻の指導教授および研究分野】

研究指導教授	研究分野
教 授 小川 次郎	建築設計・意匠、建築および都市の構成形式、意匠論
教 授 足立 真	建築設計、空間デザイン、空間構成論
教 授 佐々木 誠	建築計画、集合住宅・住宅地計画、まちづくり、地域計画
教 授 野口 祐子	福祉住環境、福祉のまちづくり
教 授 木下 芳郎	建築計画、施設利用行動と規模・配置計画
教 授 安野 彰	日本の近代における都市環境・住環境・建築の形成史
教 授 那須 秀行	木質構造、中高層木造に向けた高強度接合部の研究開発 耐力壁の安全性向上、NLT(ネイルラミネーテッドティンバー)
教 授 吉野 一	建築環境工学(空気)、高効率換気・空調システムの開発、CFD シミュレーション
教 授 樋口 佳樹	環境共生デザイン、室内熱環境シミュレーション 衛生工学、中小業務ビル改修
教 授 徐 華	環境行動、空間認知、空間評価
准教授 勝木 祐仁	生活環境の形成過程、福祉空間計画
准教授 吉村 英孝	建築デザイン、公共空間論、現代バナキュラー建築論
准教授 竹内 宏俊	建築設計・計画、建築尺度論
准教授 箕輪 健一	シェル・空間構造、振動制御、形態創生
准教授 伊藤 大輔	建築光環境の評価、昼光利用、照明シミュレーション
准教授 田中 章夫	建築材料、非破壊検査
准教授 野口 憲治	日本建築史、近世町家

【建築デザイン学専攻授業科目】（※2025 年度現在の一覧です）

学科 目 区 分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
設計・計画	都市建築の設計	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 小川 次郎
	建築空間の構成システム	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 足立 真
	集合住宅計画論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 佐々木 誠
	地域設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 佐々木 誠
	福祉生活環境論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 野口 祐子
	福祉のまちづくり特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 野口 祐子
	施設利用行動モデル論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 木下 芳郎
	施設規模・配置設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 木下 芳郎
	空間認知論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 徐 華
	街路空間設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 徐 華
	生活環境形成論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 勝木 祐仁
	福祉空間設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 勝木 祐仁
	公共空間の設計	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 吉村 英孝
	建築の形態とスケール	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 竹内 宏俊
歴史	建築設計と構法	2	◎	○	2				【休講】
	建築表現の手法	2	◎	○		2			【休講】
	組積造建築技術史特論	2	◎	○	2				【休講】
	建造技術史と修復設計論	2	◎	○		2			【休講】
	近代の都市と建築	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 安野 彰
	住宅史特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 安野 彰
	日本建築史特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 野口 憲治
構造・材料	近世町家建築史論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 野口 憲治
	木質構造設計論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 那須 秀行
	鋼構造特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 那須 秀行
	シェル構造設計論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 箕輪 健一
	空間構造特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 箕輪 健一
	建築材料と人間工学	2	◎	○	2				【休講】
	建築設計と材料性能	2	◎	○		2			【休講】
	耐久性診断特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 田中 章夫
環境・設備	コンクリート材料設計論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 田中 章夫
	建築空気環境特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 吉野 一
	建築環境設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 吉野 一
	住まい環境設計論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 樋口 佳樹
	建築熱環境特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 樋口 佳樹
	昼光照明設計論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 伊藤 大輔
	建築光環境特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 伊藤 大輔
演習科目	プロジェクト演習Ⅰ	2	◎	◎	2				小川 次郎、足立 真、那須 秀行、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、徐 華、勝木 祐仁、吉村 英孝、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫、野口 憲治
	プロジェクト演習Ⅱ	2	◎	◎		2			小川 次郎、足立 真、那須 秀行、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、徐 華、勝木 祐仁、吉村 英孝、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫、野口 憲治
	建築設計インターンシップ	4	◎	◎	4				小川 次郎
	建築設計スタジオⅠ	2	◎	◎	2				小川 次郎、足立 真、樋口 佳樹、徐 華、吉村 英孝、竹内 宏俊
	建築設計スタジオⅡ	2	◎	◎		2			小川 次郎、足立 真、那須 秀行、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、徐 華、勝木 祐仁、吉村 英孝、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫、野口 憲治
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、那須 秀行、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、徐 華、勝木 祐仁、吉村 英孝、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫、野口 憲治
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎				12	小川 次郎、足立 真、那須 秀行、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、徐 華、勝木 祐仁、吉村 英孝、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫、野口 憲治
	特別研究Ⅰ（修士設計）	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、佐々木 誠、樋口 佳樹、徐 華、吉村 英孝、竹内 宏俊
	特別研究Ⅱ（修士設計）	4	◎	◎				12	小川 次郎、足立 真、佐々木 誠、樋口 佳樹、徐 華、吉村 英孝、竹内 宏俊
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論1	2	○		2				教 授 博士（理学） 衛藤 和文
	応用数学特論2	2	○			2			教 授 博士（理学） 衛藤 和文

《修了要件》

「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」（4単位）か「建築設計スタジオⅠ・Ⅱ」（4単位）若しくは、「建築設計インターンシップ」（4単位）のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」8単位または「特別研究（修士設計）」8単位を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

博士前期課程 出願書類

1. 博士前期課程入学願書（同封）
2. 学習状況、研究計画の概要（書式見本）

学 習 状 況 ・ 研 究 計 画 の 概 要

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程

受験番号	※	氏 名			
出身大学	大学		学部	学科	
			年	月	卒業
卒業論文題名					
* 出身大学院	大学		研究科	専攻	
			年	月	修了
修士論文題名					
現在までの学習状況の概略（現在まで、特に関心をもって学んできたこと、など）					
今後の研究計画の概要					

注：※印は記入しないこと。

* 印は、他の大学院研究科出身者（および見込者）のみ記入すること。

大学院工学研究科

博士後期課程

学 生 募 集 要 項

大学院工学研究科 博士後期課程の目的・ポリシー……………	P22
1. 日程……………	P23
2. 募集定員……………	P23
3. 出願資格……………	P23
4. 志望する研究指導教授との事前面談……………	P24
5. 選考方法・選考基準・試験内容等……………	P24
6. 出願方法……………	P25
7. 受験上の注意 ……………	P26
8. 振替受験措置について……………	P26
9. 身体に障がいのある方の出願について……………	P26
10. 個人情報の取扱について……………	P26
11. 合格発表 ……………	P27
12. 入学手続 ……………	P27
13. 入学金・学費・委託会費等 一 覧 ……………	P27,41
14. 奨学金制度 ……………	P27,42
大学院博士後期課程の概要 ……………	P28～31
環境共生システム学専攻	
機械システム工学専攻	
電子情報メディア工学専攻	
建築デザイン学専攻	
博士後期課程の出願書類（所定様式）	

大学院工学研究科 博士後期課程の目的・ポリシー

【 目 的 】

工学研究科は、工学に関する精深な学識を究め、技術社会に対応し得る実工学的研究をすすめ、もって社会に寄与することを目的とする。

3. 工学研究科博士後期課程は、工学の専門分野において創造性豊かで実践的な研究開発能力を持ち、自立して研究を行うことができる研究者、又は工業技術の進展に寄与し得る実践的な研究開発能力を持った高度に専門的な創造的職業人を養成することを目的とする。

【 アドミッションポリシー 】

日本工業大学大学院工学研究科博士後期課程には、21 世紀の産業界を担う、研究者・開発技術者を養成する大きな目的があり、入学希望者にはその資質を求めます。具体的には、修士論文の内容、独創性を重視するとともに、学会等外部での発表成果と評価も判断材料となります。

【 カリキュラムポリシー 】

日本工業大学大学院工学研究科博士後期課程では、創造性豊かで実践的な研究開発能力を持ち、自立して研究を行うことができる研究者、あるいは実践的な研究開発能力を持った高度で専門的な創造的職業人を養成することを目標としています。そのため、博士後期課程では、博士前期課程で培った課題発見能力ならびに関連分野を俯瞰する能力を活かしながら、自らの研究テーマの学術的な背景を明確にするとともに、独創的な視点からテーマを深く掘り下げ、博士論文をまとめることを主眼としています。

【 ディプロマポリシー 】

日本工業大学大学院工学研究科博士後期課程は、自立して研究活動が行え、高度な創造的研究の企画、遂行、成果の発表等が行える能力とその基盤となる学識、技術等を身につけていることを学位授与の要件としています。

各専攻とも、所定の期間在学し、教育と研究の目的に沿った研究を行い、所定の単位を修得し、各専攻が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件です。

1 日程

入試区分	出願期間	試験日と試験会場	合格発表日
一般入学試験・ 社会人特別選抜	2025 年 7 月 14 日 (月) ~ 2025 年 7 月 18 日 (金)	2025 年 7 月 24 日 (木) 埼玉キャンパス	2025 年 7 月 28 日 (月)

2 募集定員

専攻名	募集人員
環境共生システム学専攻	2 名
機械システム工学専攻	2 名
電子情報メディア工学専攻	2 名
建築デザイン学専攻	2 名

3 出願資格

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うのに十分な可能性が認められる者で、次の一に該当する者。

一般入学試験

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者、及び大学院修士課程修了見込の者又は専門職学位取得見込の者。
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は見込の者。
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修し、2025 年 9 月までに修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は見込の者。
- (4) 文部科学大臣の指定した者。
- (5) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で 2025 年 9 月 21 日現在 24 歳に達した者。

※出願資格(5)に該当する者は、出願前に入学資格審査を要します。出願開始 1 ヶ月前までに教務課までお問合せください。

社会人特別選抜

以下のいずれかに該当し、入学時に 2 年以上の社会経験を有する者。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者。
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者。
- (3) 文部科学大臣の指定した者。
- (4) 本大学院において、個別の入学審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で 2025 年 9 月 21 日現在 24 歳に達した者。

※出願資格(4)に該当する者は、出願前に入学資格審査を要します。出願開始 1 ヶ月前までに教務課までお問合せください。

4 志望する研究指導教授との事前面談

出願を希望する方は、出願に先立ち志望する研究指導教授と入学後の研究等について事前面談を行い、研究分野及び研究内容等を確認の上、志望する研究指導教授の承諾を得る必要があります。

なお、研究の特性上、事前面談の申込みは1回限りいたします。

以下の書類を作成し、kyomu@nit.ac.jp に送信してください。

＜提出書類＞ 本学ホームページからダウンロード

- ①履歴書
- ②研究業績書

＜提出方法＞

メールを送信する際は、以下の項目を必ず記載してください。

①件名

「大学院博士後期課程入試_事前面談希望（〇〇専攻）」

②記載事項

「氏名」「入試区分（一般入学試験または社会人特別選抜）」「志望専攻名」「指導希望教員名（1名のみ）」

※遅くとも「出願開始3週間前まで」にメールを送信してください。

提出書類を確認し、「**出願開始2週間前まで**」にご連絡します。

※提出書類の他に、面接に必要な書類等を求める場合があります。

※本学出身者は、卒業研究等指導教員の指示に従うこと。

5 選考方法・選考基準・試験内容等

一般入学試験

(1) 選考方法・選考基準：書類審査、筆記試験および面接

(2) 試験内容

① 筆記試験：外国語（英語）

※外国語の辞書の使用を許可する受験者には個別に連絡します。

② 面接 専門に関する口頭試問を含む

専門科目、修士論文又はそれに代わる論文及び博士後期課程入学後の研究計画について試問する。

※面接時間は、受験者数により調整する場合があります。詳細は、当日ご案内します。

社会人特別選抜

(1) 選考方法・選考基準：書類審査および面接

(2) 試験内容

面接：専門に関する口頭試問を含む

専門科目、修士論文又はそれに代わる論文及び博士後期課程入学後の研究計画について試問する。

※面接時間は、受験者数により調整する場合があります。詳細は、当日ご案内します。

6 出願方法

(1) 出願方法

志願者は、入学検定料を納付し、出願書類一式を、教務課へ提出してください。郵送の場合は、**出願締切日必着**とします。

出願書類確認後、受験票在中封筒にて受験票を送付します。受験票が届かない場合は教務課へお問い合わせください。

【出願書類提出先】日本工業大学 教務部教務課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4丁目1番地

☎0480 (34) 4111 (代表)

【窓口受付時間】(いずれも厳守)

月～金曜日：午前9時～11時30分 午後12時30分～17時

土 曜 日：午前9時～11時30分 午後12時30分～15時

(2) 入学検定料の納付 30,000 円

入学検定料は、手数料を添え金融機関からの振込みにより納付してください。同時に、入学願書の指定箇所(3か所)に金融機関の収納印を受けてください。

※都市銀行・地方銀行・信託銀行・信用金庫などの金融機関から振込むことができます。

※ネットバンキング等の利用により収納印を受けられない場合は、振込日と金融機関をお知らせください。

※納入した検定料は、いかなる理由があっても返還しません。

(3) 出願書類 出願書類は、志望する研究指導教授の承諾を得られた方にお渡しします。

出願書類	備考
① 入学願書・受験票 (本学所定の用紙)	必要事項を記入の上、写真(②参照)を所定欄に貼付してください。 金融機関より入学検定料の収納印を受けください。 ※ 3 出願資格 の一般入学試験(5)、社会人特別選抜(4)に該当する者は入学資格審査が必要です。資格審査欄に志望する専攻の押印を受けること。
② 写真	裏面に氏名を明記し、所定欄に貼付してください。 (最近3か月以内に撮影した正面上半身・脱帽で明瞭なもの。大きさは、縦4cm×横3cm、枠なし、白黒・カラー共に可)
③ 履歴書・研究業績書 (本学所定の用紙)	※一般入学試験による出願の場合に提出してください(志望する研究指導教授との事前面談で提出済み)。
④ 研究計画書	※社会人特別選抜による出願の場合に提出してください。(書式任意)
⑤ 成績証明書	出身大学が作成し発行したもの。
⑥ 修了(見込)証明書	出身大学が作成し発行したもの。
⑦ 健康診断書	最近3か月以内に医療機関で証明を受けたもの。 ※本学健康管理センター発行の健康診断書については可。
⑧ 受験票在中封筒	宛先を明記してください。
⑨ 宛名ラベル1枚 (本学所定の用紙)	宛先を明記してください。合格通知または諸事項についての連絡・通知が必要となった場合に使用します。 ※本国より直接出願する留学生は、日本国内の連絡可能な住所を記入してください。

※外国人留学生は、以下の書類も提出してください。その他、事前に【13. 入学手続】の項を確認してください。

⑩ 在留カードのコピー又は在留資格を証明する書類
⑪ 残高証明(金融機関の預金残高を証明するもの)

7 受験上の注意

一般入学試験

- (1) 受験票に同封する試験室で受験してください。
- (2) 午前 9 時 45 分までに試験室に入室してください。入室限度時刻（10 時 30 分）以降の試験会場への入室は認めません。ただし、交通機関の遅れ等、やむを得ない事情によって遅刻した場合は、教務課に申し出てください。
- (3) 受験票を紛失した場合は、教務課に申し出て、指示を受けてください。
- (4) 筆記用具を持参してください。
- (5) 多機能（計算機能、英語辞典、漢字辞典等）付きの辞書の持込みは禁止します。また、アラーム付きの時計は、機能を解除してください。
- (6) 携帯電話等の電源は OFF にしてください。
- (7) 試験時は、試験監督等の指示に従ってください。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。

社会人特別選抜

- (1) 受験票に記載された集合時間の 15 分前までに、受験票に同封する集合場所にお越しください。ただし、交通機関の遅れ等、やむを得ない事情によって遅刻した場合は、教務課に申し出てください。
- (2) 受験票を紛失した場合は、教務課に申し出て、指示を受けてください。
- (3) 筆記用具を持参してください。
- (4) 携帯電話等の電源は OFF にしてください。

8 振替受験措置について

学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、インフルエンザ等）に罹患し治癒していない場合は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、原則として受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。

【2025 年度秋季入学（9 月入学）一般入学試験・社会人特別選抜】の志願者は、お問合せください。

なお、振替受験措置を希望しない場合でも、原則として、検定料の返還はしません。

9 身体に障がいのある方の出願について

受験に際し、疾病・負傷や身体障がい等のために、特別な措置を希望する方は、「受験相談申請書」（本学所定の書式）を取り寄せて、出願時までに申請してください。結果については、後日お知らせします。

申請の際は、医師の診断書または身体障害者手帳（コピー可）を添付してください。

【出願書類提出先】

日本工業大学 教務部教務課
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4 丁目 1 番地
☎0480（34）4111（代表）

【窓口受付時間】（いずれも厳守）

月～金曜日：午前 9 時～11 時 30 分 午後 12 時 30 分～17 時
土 曜 日：午前 9 時～11 時 30 分 午後 12 時 30 分～15 時

10 個人情報の取扱について

出願を通して収集した住所、氏名等の個人情報は、入学試験実施、合格発表、入学手続、本学（本学関係者を含む）からの入学に関する資料の発送や、統計的集計、入学後の学修指導、これらに付随する業務に関してのみ使用し、他の目的には一切使用しません。また、個人情報の漏洩・流出等がないよう厳重に管理します。

11 合格発表

合格発表は次のとおり行います。

- (1) 合格発表日に、合格者の受験番号を本学内（1号館1階教務課前掲示板）に掲示します。
- (2) 受験者には、入試結果等を各個人宛（出願時に提出した「宛名ラベル」の宛先）に、合格発表日に速達で郵送します。
- (3) 電話等での可否に関する問い合わせには、一切応じません。

入試区分	合格発表日
一般入学試験・社会人特別選抜	2025 年 7 月 28 日（月）

12 入学手続

(1) 入学手続期間（締切日必着）

入試区分	入学手続期間
一般入学試験・社会人特別選抜	合格発表日～ 2025 年 8 月 29 日（金）

(2) 入学手続方法

合格者に通知する「入学の手引き」に従い、学費等を金融機関から振り込み後、入学手続書類を上記の入学手続期間内に提出してください。

外国人留学生は下記の書類を別途提出して下さい。

* 保証人（日本在住の方）の住民票

(3) 注意事項

- 指定の期日までに入学手続きをしない場合は、入学を許可しません。
- 修了見込み等で受験し、合格した者で、2025 年 9 月 21 日までに大学院入学資格を取得できなかった者は、合格取り消しとなり、入学資格を失います。
- 出願後は、書類の変更、検定料の払い戻しは行いません。
- 出願書類に虚偽の記載があった者には、入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。

13 入学金・学費・委託会費等一覧表

p.41 を参照してください。

14 奨学金制度

p.42 を参照してください。

大学院工学研究科博士後期課程の概要

環境共生システム学専攻

目的・目標

環境共生システム学専攻では、21 世紀の産業を担う技術に不可欠である環境や社会への責任を念頭に置き、地球環境と人間社会の持続的な調和・共生を大局的に捉えながら、実用および基礎研究の両側面から挑戦することができる技術者・研究者を養成します。

＜物質デザイン部門＞

有機化学、物理化学、光化学などのより専門的な知識を身につけ、新たな物質をデザインし、地球環境の保全や人類の繁栄に役立つ実用的なデバイスへと応用する実践力を修得します。

＜材料・環境科学部門＞

材料プロセス、エネルギー・資源工学、電気化学などのより専門的な知識を身につけ、環境・エネルギーという観点から材料/資源を包括的に捉え、技術革新に繋がる実用研究を目指す実践力を修得します。

＜生物工学部門＞

生物学、ナノ材料化学、バイオテクノロジーなどのより専門的な知識を身につけ、生き物のもつ素晴らしい能力や機能を解明し、実社会で役立つ新技術へと応用する実践力を修得します。

アドミッションポリシー

博士後期課程環境共生システム学専攻では、地球環境と人間社会の持続的な調和・共生という視点から技術の在り方を見つめ直そうとする提案力を持ち、「物質デザイン」、「材料・環境科学」および「生物工学」に関する専門知識の獲得と新規技術の開発創造をめざし研究活動に意欲的に取り組む人材を受け入れます。入学判定に際しては、修士論文の学術的貢献度および学会等における論文などの発表実績を重視します。

機械システム工学専攻

目的・目標

「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」の各専門領域について、最先端の研究・技術開発に取り組むことが可能な技術者および研究者を養成します。さらに、高度の専門的知識と広い視野をあわせもち、急速に複雑化する機械工学の進展を見据え、これらの専門領域を統合・演繹できる創造的な研究能力と技術力を兼ね備えた人材を養成します。

<加工学・生産工学部門>

次世代のもののづくりを担う加工技術、生産技術および材料技術などの研究開発を通じて製造業で必要とされる機械の設計・計測・制御、材料評価方法および各種データの処理手法などに関する専門知識と実践力を修得することを目的とします。

<エネルギー変換工学・計測制御工学部門>

環境に調和したエネルギー変換装置および高度な計測・制御機器の研究開発を通じて省エネ技術や環境保全技術に必要なエネルギー変換、分析評価、制御、センシング、精密測定、データマイニングなどに関する専門知識と実践力を修得することを目的とします。

<メカトロニクス・ロボット工学部門>

人間生活や社会を豊かにする人型や医療などの各種ロボットの研究開発を通じてロボットに利用される機械要素、機構設計・製作、機械制御、各種センサによる計測技術などに関する専門知識と実践力を修得することを目的とします。

アドミッションポリシー

博士後期課程機械システム工学専攻は、生産現場に直結し、牽引する研究者・開発技術者を養成する目的から、高いレベルの専門知識ばかりでなく、リーダーシップに優れた人材を求めています。その指標として、修士論文の学術的成果と学会等における発表実績、さらには研究成果の社会的貢献度を重視します。

電子情報メディア工学専攻

目的・目標

電気工学、電子工学および情報工学に関連する技術は、近年たがいに強く関係しながら発展しています。このような状況に対応してエレクトロニクス、情報通信技術およびマルチメディアの3つの専門領域について、ハードウェアに関する視点とソフトウェアに関する視点を兼ね備え、世界の技術革新をリードできる広い視野と柔軟性を備えた、実践的開発技術者・創造的研究者を養成します。

<エレクトロニクス領域>

材料の生成方法の検討、新たな機能材料の創出とその応用、アナログ集積回路、制御理論、電気機器、電気接点など、電気電子機器を構成する材料やその特性に関する研究・開発に取り組みます。そして、社会・産業の基盤となるハードウェアとしてのエレクトロニクスに関する専門知識と実践力を修得します。

<情報通信技術領域>

無線伝送、情報理論、通信トラヒック理論、移動ソフトウェアエージェント等、情報通信では必要不可欠なシステムの研究・開発に取り組みます。そして、社会と暮らしへのコンピュータ応用を目指すソフトウェアとしての情報通信技術に関する専門知識と実践力を修得します。

<マルチメディア領域>

コンピュータグラフィックス、ソフトコンピューティング、計算知能化技術等、人間と情報システムの関わりを中心にした新たな技術創出に関する研究・開発に取り組みます。そして、多様な情報メディアとネットワークからなるマルチメディアに関する専門知識と実践力を修得します。

アドミッションポリシー

博士後期課程電子情報メディア工学専攻に進学するには、多様化する電子情報メディア工学分野の進展を見据え、自らの研究を客観的に位置付ける、広い視野が欠かせません。また、チームで研究するためのリーダーとしての資質も必要です。これらの指標として、修士論文の学術的成果のみならず、学会等における発表実績を重視します。

建築デザイン学専攻

目的・目標

建築計画、建築意匠設計、建築史、建築構造・材料、建築環境・設備の各専門領域における高度な専門性に加え、自ら課題を発見し、問題を整理・解決し、持てる知識と柔軟な発想を駆使して立案実行できる能力の開発、また、広い視野と深い洞察力のもと、異なる専門領域が協働する研究、創作、技術開発においても実践的に活動できる能力を修得し、次世代の研究分野や設計分野を切り拓き、新たな世界を提案できる、研究者、建築家、技術者を養成します。

<建築計画>

都市や地域における居住とその空間のあり方、ケアが求められる居住を含む建築空間やコミュニティのあり方を、建築計画や都市計画、地域計画、まちづくりの視点から分析し、保健・医療・福祉分野との連携において、調査・分析・提案する専門的な能力を修得します。

<建築意匠設計>

建築・都市・インテリア空間のデザイン特性とその背景について、社会・文化・技術との関わりから分析し、新たな認識のもとに空間を創造する提案能力を修得します。

<建築史>

歴史的な文化環境や建築のあり方を、世界的な視点で調査・研究し、その保存再生プロジェクトを実践する専門的な能力を修得します。

<建築構造・材料>

木質構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造およびその複合構造の耐震技術や耐久性向上の技術に関する研究・開発や実施・普及に資する専門的な能力を修得します。

<建築環境・設備>

建築や都市を対象とした環境問題について、問題発生の原理やメカニズム、要因を調査・分析し、適切な対策の検討とその効果の検証を通して、環境負荷を削減して快適な空間を創出する設計手法に関する提案能力を修得します。

アドミッションポリシー

博士後期課程建築デザイン学専攻が求める入学者は、本専攻が掲げる教育方針に共感し、幅広い建築的能力と創造性とともに、次世代の研究分野や設計分野を開拓する高い志をもつ意欲あふれた人です。その可能性をはかる指標として、自らの提案を正確に伝えるプレゼンテーション能力と、修士論文の学術的成果、学会等における発表実績を重視します。

博士後期課程 出願書類

1. 博士後期課程入学願書（同封）
2. 履歴書（書式見本）
3. 研究業績書（書式見本）

履歴書記入上の留意点

日本工業大学

【氏名欄等の記入について】

- 氏名欄は直筆で記入してください。その他の事項は、手書き、パソコンいずれも可能です。顔写真はデジタルデータを用いることも可能です。
- 年号は和暦で記入してください。留学生については西暦での記入も可能です。
- 年齢は作成時のものを「満年齢」で記入してください。
- ＜学歴＞＜学位＞＜職歴＞＜受賞歴＞の順に記入してください。

【学歴の記入について】

- 学歴は、高等学校卒業以降から記入してください。
- 大学院入学（または修了）と記載するときは、「●●大学大学院●●研究科●●課程●●学専攻入学（または修了）」と記入してください。
- 博士課程を出て博士号を取得していない方の学歴は、「博士課程単位取得満期退学」と記入してください。
- 大学の別科、専攻科については学歴欄に記入してください。研究生、副手、聴講生等は職歴欄に記入してください。
- 外国留学については、「学生としての留学」の場合は学歴欄に、「研究者としての留学」の場合は職歴欄に記入してください。

【学位の記入について】

- 学位、称号および学位授与先、学位記番号、学位論文題目も付記してください。
- 学位論文題目を記入する際は、「 」を付記してください。

【職歴の記入について】

- 職歴欄には、職歴のすべてについて記入し、職名や役職等も明記してください。なお、現職については必ず「現在に至る」と明記してください。
- 職歴の年月欄はその職の就任年月を記入し、事項の末尾に括弧書きでその職の離任年月を記入してください。
- 大学の教員の職歴については、主な担当科目を（ ）で付記してください。

年 月 日 現在

縦 36～40mm
横 24～30mm
本人単身胸から上
裏面のりづけ

ふりがな	
氏 名	印
生年月日	年 月 日生（満 才）

（旧氏名）	（ 年 月 日）		
ふりがな		電 話	
現住所	〒		
		E-mail	

[illegible]

研究業績書記入例

研 究 業 績 書

年 月 日

氏 名

印

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 または発表学会の名称	概 要
I・著書 II・学術論文（査読あり） 1. 半球状容器における表面張力対流 III・学術論文（査読なし） IV・国際会議（プロシーディング） 査読あり／なしを明記 V・その他の業績 （特許等） •一冊の本を数人で執筆した場合、当該部分は単著であっても共著として扱います。 •著書がない場合は、 I・学術論文(査読あり)から始めてください。以下同じ。 •学位論文については、その旨明確になるように記入してください。	共著	平成26年12月	溶接学会、溶接学会論文集 第2巻第3号	一定容器を熔融池と仮定して温度差によって発生する表面張力対流の速流の速度場・・・ P 8 ～ P 9 (山田、谷田)
	• 単独の場合、単著と記入してください。	• 新しい発表 年月順に記入してください • 原則として元号を使用してください。	学会誌等において発表予定のものについては、その旨を明記し、証明書を添付してください。なお、いわゆる投稿予定のものは含まないものとします。	• 概要について、各著書、学術論文等ごとに 200 字程度で記入してください。 • 共著の場合は、担当部分及び頁数を明記し、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を記入してください。ファースト オーサーを先頭に。 • 共著の場合で本人の担当部分を明確にできないときは、その理由を明記してください (例 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)

研究業績書

年 月 日

氏名

印

著書・学術論文等の名称	単著 の別 共著	発行または発 表の年月日	発行所・発表雑誌等ま たは発表学会の名称	概 要

著書・学术论文等の名称	単著 の別 共著	発行または発 表の年月日	発行所・発表雑誌等ま たは発表学会の名称	概 要

著書・学術論文等の名称	単著 の別 共著	発行または発 表の年月日	発行所・発表雑誌等また は発表学会の名称	概 要

共 通 事 項

(博士前期課程・博士後期課程)

13 入学金・学費・委託会費等一覧表

下表は、2025 年度秋学期の学費を示します。

- 1) 授業料は毎年度、見直しが行われます。
- 2) 学費は学期ごとの納入となります。
- 3) 健康診断料は毎年度春学期に徴収いたします。
- 4) 傷害保険料（学生教育研究災害傷害保険、学生団体傷害保険）は毎年度始めに徴収いたします。
- 5) 委託会費等については、金額が変更となる場合があります。
- 6) いったん納入された学費等は返還いたしません。

●博士前期課程

種別		納入区分	秋学期分	本学卒業生※ ¹ 秋学期分
入学金・学費	入学金※ ¹		200,000	
	授業料		496,500	496,500
	小計		696,500	496,500
委託会費等	健康診断料		0	0
	傷害保険料		1,630	1,630
	工友会(同窓会)会費※ ¹		7,500	
	小計		9,130	1,630
合計			705,630	498,130

●博士後期課程

種別		納入区分	秋学期分	本学卒業生※ ¹ 秋学期分
入学金・学費	入学金※ ¹		200,000	
	授業料		496,500	496,500
	小計		696,500	496,500
委託会費等	健康診断料		0	0
	傷害保険料		1,630	1,630
	工友会(同窓会)会費※ ¹		5,000	
	小計		6,630	1,630
合計			703,130	498,130

※¹ 本学の卒業生は、入学金ならびに工友会(同窓会)会費が免除されます。

* 入学年度学費の詳細は、合格者に送付する「入学の手引き」をご参照ください。

<納入期限>

入試区分	納入区分	納入期限
一般入学試験・ 社会人特別選抜	2025 年度秋学期分	2025 年 8 月 29 日（金）

14 奨学金

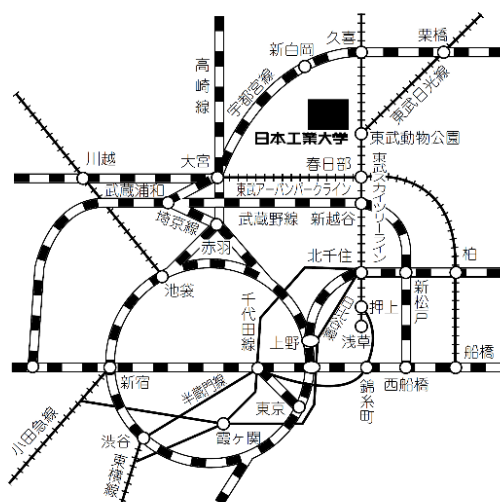
- (1) 日本学生支援機構奨学金（第一種奨学金※授業料後払い制度も含む、第二種奨学金）
- (2) 日本工業大学大川陽康奨学金
- (3) 日本工業大学育英資金
- (4) 地方公共団体および民間育英団体奨学金

※日本学生支援機構 奨学金の申込みについて、在学生には、予約採用申込説明会にてご案内します。
必ず説明会に出席してください。日程は、日本工大サポータルに掲載します。

【お問い合わせ先】

学生支援課 奨学金係 電話：0480-36-7508 メール：gakuseika@nit.ac.jp

日本工業大学案内図

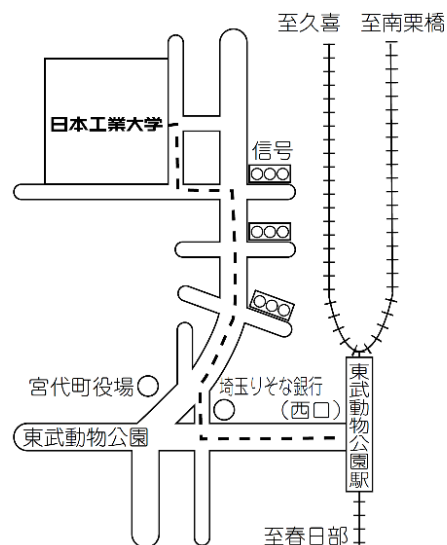


東武スカイツリーライン東武動物公園駅下車
西口より徒歩14分、スクールバス乗車5分

(地下鉄日比谷線・半蔵門線乗り入れ、地下鉄千代田線)
北千住駅乗りかえ、急行で35分。

日本工業大学教務部教務課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL. 0480(34)4111(代)・(33)7507(直通)
FAX. 0480(33)7527



JR宇都宮線新白岡駅下車 スクールバス乗車12分